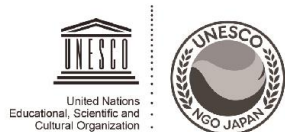


デジタル版



中央区ユネスコ協会 ジャーナル

Chuoku UNESCO Association Journal



発行／中央区ユネスコ協会
発行人／藤掛正史
発行日／不定期

〒104-0061
東京都中央区銀座7-2-4 アンジェリックフォセットビル2階
TEL 03-3573-0783 FAX 03-3573-0784
<https://chuo-unesco.jp/>



中央区ユネスコ協会ジャーナル 第1号 日本-カザフスタン外交関係樹立30周年記念講演会

目次

基調講演「カザフスタンと日本—平和への想いを共有する友好関係」

クルマンセイト・バルトハン 駐日カザフスタン共和国大使館公使

講演1 「遙かなる国カザフスタン—民族・国境を超えて ～ウラルスク省エネルギーモデル事業

日カの架け橋～」

酒田共同火力発電株式会社 取締役社長 千葉秀樹氏

講演2 「『カザフスタン in さかた』で結ばれた絆」

山形カザフスタン友好協会 会長 加藤明子氏

基調講演「カザフスタンと日本—平和への想いを共有する友好関係」

クルマンセイト・バルトハン 駐日カザフスタン共和国大使館公使

クルマンセイト：皆さま、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました、駐日カザフスタン大使館、公使参事官を務めております、クルマンセイト・バルトハンと申します。よろしくお願ひいたします。

まず、基調講演ということの前に少しごあいさつさせていただきたく、よろしくお願ひします。本日このような会場で、皆さまのような方々の前で私に基調講演をさせていただくこと、このような機会を設定していただきました主催者の皆さま、ご協力者、ご後援者の皆さま、また、ご出席者の皆さまに深くお礼申し上げます。ありがとうございます。

本来であれば、このような場所では大使が講演するのが普通ですけれども、今回エシムベコフ大使の多忙なスケジュールにより、次席として私が代表させていただくことになりました。

今まで大使と、また、大使館と長年にわたって友人で、友好関係でいらっしゃる方がこちらにおられます。赤尾敏社長という方が、大使に電話があつて今回の話が始まりました。大使からは、赤尾社長から電話があつて、中国とユネスコが何かのイベントを開催しているようで、私にそれに協力してほしいということでした。このイベントの主催者たちが大使館に来ることになっているから、おまえが話を聞いてくれないかとのことでした。私は何で中国とユネスコの話、私が聞かなきゃならないかと思いま

した。赤尾社長に対し、余計な仕事をつくらぬほしいよと思いました。そして、大使館に来られた主催者である藤掛正史会長と麻生美央理事と初めて会って話を聞いてみると、何と中国とユネスコではなくて、中央区とユネスコだったのです。これは本当にほっとしました。中国ではなく、中央区でしたから。これは喜んで話を聞かせていただきたいという気持ちになりました。面談が終わってすぐ、大使にそのことで報告したわけです。中国じゃなくて中央区でしたよと言ったら、「分かった。なるほど。じゃあ、おまえに任せるから引き続きやってくれ」という話となり、私が今ここにいるわけです。

そして先日は、本日のご出席者の名簿がメールで送られてきましたけれども、そのリストを見ますと国会議員の方々がいらっしゃる。これは本当に大変だと思いましたね。しかも、親善大使の中で、カザフスタンの友好議連の会長、遠藤利明先生がいらっしゃるの、これは本当にびっくりしました。本来は大使がこの会場にいるべきと思ひまして、本当に恐縮しています。遠藤先生の前で私がいること自体、恐縮ですし、すごく緊張しますが、大変光栄にも思ひます。先ほども言ひましたけれども、中央区ユネスコ協会設立準備委員会の2人の方々から、今回の共同主催者で山形カザフスタン友好協会のご説明がありました。しかし、私にとっては山形カザフスタン友好会の説明は必要なかったのです。と申しますのも、この協会は、かつてカザフスタン共和国と一緒に仕事させていただいた東北電力の方々、特に東北電力の酒田発電所の千葉秀樹社長と協力者によって設立された協会です。大使と私との関係があつて

作った協会ですから、私が良く知っておりますので。恐らく今日、山形県出身の遠藤先生も本日、このような会場にいらっしゃることは、山形カザフスタン友好協会の存在があったからだと思います。私は東北電力と東北地方と、その中で山形県とも深い交流があって、とても貴重な思い出もたくさんあったため、本日このような機会ですので、遠藤先生の前でそのような思い出話も少しさせていただきたいので、よろしくお願いします。

私は、1999年に京都大学に留学させていただき、大学を卒業してからカザフスタンと日本の間のさまざまな案件に、さまざまな立場で携わってきました。通訳者として、翻訳者として、プロジェクトコーディネーターとして、ビジネスコンサルタントとして、リエゾン・オフィサー（連絡官）として、また、ドライバーとして。これらは昼の仕事です。夜の仕事もやりました。飲み友達として、ナイトガイドとして、セキュリティサービスマンとして、ガードマンとして。これらの夜の仕事が一番大変でした。本当にきつい、汚い、厳しい、この3つが見事にそろった仕事でした。大きな仕事の1つは、東北電力が実施した、カザフスタンでの NEDO 省エネルギー技術モデル事業でした。4年間あまり一緒に仕事させていただいた東北電力の方々と、さまざまな思い出があります。特に、カザフスタンで東北地方の自然と文化の写真展を開催したことも、貴重な経験であり、素晴らしい思い出となりました。私は山形の、東北の、「泣く子はいねえが、悪い子はいねえが」を、どうロシア語とカザフ語に訳せばいいのか、悩んでいたのを今でも覚えています。

東北は、仙台で千葉さんの自宅に招待されたこともあります。カザフstanは東北地方の美味しいお米と美味しい日本酒の話をしていたのに、なぜか、千葉社長の家に行ったら、フランスやイタリアのワインを出されてびっくりしました。ある建築士さんの家に行ったことがあります。さすが、建築士さんですね。すごい家ですねといったら、「いや、最近女

房から欠陥住宅です言われています」というふうに言うのです。また、思い出しましたが、私と同じ年で、もう一人の別の建築士さんの家に招待されたことありました。美しい奥さんと4人のかわいい子供がいます。最近、日本では子供が少ないのですが、その建築士さんは4人も子供がいて、2011年3月11日の東日本大震災があった後は、連絡が何日間も取れなくて。心配で彼に一生懸命電話しました。やっと連絡が取れ、生きているのかと聞いたら、何とか助かったと。この話にほっとしましたが、「もし建築士さんの身に何か起こったら、あの美しい奥さんは俺が預かることになったかもしれせん。」と伝えたら、「おまえみたいなやつが生きている限り死ぬわけにいかない」と言われたことを思い出しました。カザフスタンプロジェクトでの私のボスが、現地事務所の所長だった山形出身の方でした。本当に素晴らしい方でした。1回、山形の家についていったことありますが、その時にお母さんを紹介してもらったことあるのです。「おい、ばあちゃん。この人、外国人だ」と言ったら、そのおばちゃんが私の顔を見て。「日本人と同じになってきたね」と言ったのだけはわかりました。所長さんが「だべ、だべ」って笑っていましたが、二人が何を言っているのか全然分からないのです。山形は本当に面白いなと思いました。もう1回、所長の山形に行った時に山寺に行きました。所長さんは「俺は上がらない」と言って案内してもらえなかったので自分で上がりました。下りてきたら、所長さんから、山形にしかない冷たいラーメンをごちそうになりました。大変おいしかったです。後にテイクアウトしましたが、この冷たいラーメンは、山形出身の研究者が8年もかけ、凍らない油を世界で初めて作ったそうです。これは大変にびっくりしました。普通の油ですが、油の味がしません。凍らない油には驚きました。

以上、私が東北電力と東北地方と山形とのつながりでした。遠藤利明先生、大変貴重なお時間の中で、私の話を聞いていただき、ありがとうございます

た。

日本人と同じになってきたと言われたりして、時々、本当に日本人に間違えたりします。ただ、日本人に似ていて得ることがあまりありません。どちらかという逆のパターンになります。最近、コンビニエンスストアに入ったら、温かそうな食べ物があって、私はそれが何の食べ物か知らなかったもので、「これは何ですか。」と聞いたのです。そうしたら「おでんでしょう。」と店員から驚かれたことがあります。「すみません、知らないから聞いているのですよ。そんなに怒らなくても。」しかし店員は何で知らないのというような顔をしていました。最近、逆に、「すみません、私、外国人です。だから質問します。」と言ってから聞くことにしました。すると逆に「前置きが長い、聞きたいことを最初から聞きなさい。」と言ってくるわけでして。大変です。

以上、前置きが大変長くなりましたが、これから日本とカザフスタンの関係について話しをさせていただきます。どちらかと言うとこの話しが原因ですけれども、もしよろしければ座らせていただいて、これで話したいと思います。

マスクをかけたままで話します。私は日本に来る前に2回、ロシアのスプートニクというワクチンを打ってきました。しかし日本ではそれは認められないと言われたため、3回打ち直しました。つまり5回もワクチンを打ってマスクです。どうしてでしょうか。これは日本だけです。特に冬は眼鏡が曇ってしまうので、眼鏡を外すか、マスクを外すかです。眼鏡を外したら目が見えない。マスクを外したら、みんなから白い目で見られる。本当に大変です。このような拙い日本語ですけれども、一生懸命話しますので、皆さんも一生懸命頑張って話しを聞いていただきたいと思います。よろしくお願いします。

私の今日の話しは、カザフスタンと日本、平和への思いを共有するという話しですが、その前にユネスコの話もありまして。今日はユネスコの主催でもありますので。ザフスタンのユネスコ世界遺産と

文化遺産は5件登録されています。その映像がありますので、先ずはご覧になっていただいた上で話しをさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございました。ちょっと長くなりましたが、千葉社長が大好きな馬肉の話もありましたね。カザフスタンの紹介をさせていただきましたが、地図で見ると、カザフスタン共和国は、中央アジアに位置している国です。中央アジアは5カ国からなっていて、日本では「ファイブスタン」と言われています。カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キリギスとタジキスタンです。東に中国、北にロシアといった大国。南に行くと中近東になっています。イランです。そしてインドにつながり、カスピ海にも面している。このように世界で9番目の面積を持つ国であります。歴史的に、先ほどの映像での話しもありましたが、ソ連という国から独立してから31年たちました。ただ、ソ連の前に、むしろその前の、ロシア帝国の前に既に存在していた国です。昔から、紀元前からヨーロッパとアジアをつなぐ大きな交差点でもあったわけです。先ほどの話にもありましたけれども、100以上の民族が平和共存しているという紹介がありました。そういった多文化、多民族、多宗教国家であるカザフスタンは、昔からさまざまな文化、さまざまな言語が交差し、混在している場所です。19世紀にロシア革命によってソ連ができ、ソ連の一部となりました。その後、ソ連がなくなって独立してから31年たちました。独立した次の年に日本はカザフスタンで大使館を作り、96年にはカザフスタンが日本に大使館を作りました。人口は2,000万人にもならず、世界で9番目の面積にしては少ない人口です。文化面ですが、宗教的には70%はイスラム教で、その他はロシア正教だったり、他の宗教があつたりします。2020年のGDPは1,712億ドルで、1人あたりのGDPは、今年で1万ドルとなっております。建国時の2倍ぐらい近くまでできました。2年前にカザフスタンの現地

通貨、「テング」といいますが、通貨の切り下げ、ドルに対する切り下げがあって、ほぼ2分の1まで価値が下がってしまいました。これはロシアに関連しているから、ドルで換算した場合は1万ドルでしたが、その切り下げがなければ、もしかしたら2万ドル弱までいったかもしれません。

このような経済発展の背景には、石油だったり天然ガスだったり、ウラン、また、レアメタルなどが豊富だったり。日本や外国から見たら、石油、天然ガスがあって資源が豊富で、レアメタルもある、ウランもあるという、資源ばかりの話になります。しかし、先ほどアバイの本を大変ご丁寧にご紹介されましたように、実は資源ばかり持っている国ではなく、大変に豊かな文化、深い歴史、文学を誇る国でもあります。その1つとして、われわれはアバイを2年前に、今のトカエフ大統領の指示によって初めて日本語に翻訳させました。もしかしたら何冊か渡されている方もいらっしゃるかもしれませんが、このような機会を通し、ぜひこの本を読んでいただきたいです。この本を読んでいただくと、カザフスタンが資源だけじゃない、政治だけじゃない、やはり深い文化がある、豊かな文化がある、歴史があるということを知っていただくことができます。そういう意味で今回、参加者にお渡ししました。しかし現在のカザフスタンを紹介する際には、経済発展しているとか、政治的に安定しているとかという話をしなければならず、資源があるという話しを中心にさせていただいています。外交的には、中央アジアで経済的にも発展しているため、中央アジアで初めて国連安保理の非常任理事国に選出されました。日本とは共同で非常任理事国となりましたが、軍縮・核不拡散でも大変に力を入れている国です。また、2017年にアスタナで国際博覧会のEXPOが行われました。こういったところもカザフスタンの紹介できるところの1つであります。特に、この軍縮・核不拡散という話しを少し触れさせていただきますと、ご存知のように、冷戦時にソ連と米国が最も競争し

ていた、最も競っていた分野が2つあって、これが核兵器を開発するという分野と、もう一つは宇宙開発の分野です。この両方がソ連時代にカザフスタンの国土にあったわけです。世界最大の核実験場です。これは誇張でなく、本当に残念なことです。世界最大の核実験場がカザフスタンにあり、カザフスタンは大変な被爆国家ということです。そういった意味で、この被爆という体験を通し、日本との協力も大変に深いわけです。われわれは広島と長崎とも大変深い交流を持っています。私の母親もそうなのですが、この会場の中に、カザフスタン人で、核実験場があった地域の方々があります。ここには広島の大学で日本語を学んだ経験のある私の後輩たちもいますが、これもカザフスタンという話しになると必ずテーマです。そしてもう一つは宇宙開発と言いましたが、ガガーリンが宇宙に飛んだ場所がバイコヌールとあって、それもカザフスタンにあり、その施設をロシアに貸しているところです。ある日本のジャーナリストで、TBSの方だったのですが。そのジャーナリストは、野口聡一さんが、そのバイコヌールから飛んで、宇宙からカザフスタンに帰ってくる時に、宇宙と地球を結び、ヨーロッパとアジアを結ぶ国がカザフスタンと紹介して下さいました。このように地球上だけではなく、地球と宇宙を結ぶという役割を果たしているのがカザフスタンです。これは大いに誇って良いのではないかと思います。バイコヌールというのが宇宙開発の世界トップレベルの場所なのです。今、有人のロケットしか出せていないため、カザフスタンから宇宙に行けることは大変な強みです。

次は政治情勢です。簡単に申し上げますと、カザフスタンは共和制で、元首は大統領です。二院制があって、上院が50人で、半分が26人ですけれども、その半分が3年ごとに再選されます。下院が新しいに憲法によって任期が5年となり、定数98名です。2019年までに約30年間、独立してからずっと大統領を務めていたナザルバエフ大統領が辞任を発表し、

その次の日に憲法で決まっていた上院の議長が大統領に就任しました。これは憲法で決まっていることで、引き継がれて新大統領が就任しましたが、その後、選挙を行わなければなりません。このため6月に選挙があり、そこで正式に当選されました。旧ソ連の中で、ずっと政治的に安定し、経済的にも発展していると言われてきたカザフスタンでも、1月に大きなデモがあり、その影響で内閣が全部総辞職しました。ナザルバエフ大統領がこれまで安全保障会議の議長を務めていましたけれども、今の新大統領が就任したのです。新しいトカエフ大統領は1月の国民の不満を踏まえながら、これはやはり国民の声に耳を傾ける、そういった政治を行わねばならないと決断し、大統領の権限を下げる、減らすことにしました。そのためにはやはり憲法を変えねばならないということを提案しました。夏には憲法の国民投票があり、それを実現させ、新しい憲法のもとで、今後の大統領は再選が禁止され、1期目のみに制限することを提案しました。この選挙はついこの間、11月20日に行われ、80%の票を取ってトカエフ大統領が再選されました。政治情勢について簡単に申し上げますと、このような内容です。

次のスライドをお願いします。カザフstanは小さな国連と言われています。外国と付き合いが上で何一つ苦手な国はないというバランスある外交を展開しております。これが、われわれ外交官としての誇りをもって話しをさせていただくところがあります。先ほど、カザフstanの地理的な状況も紹介させていただきましたが、ロシア、中国に挟まれている国であり、やはり外交の面でもロシア、中国と、また、米国と、また、ヨーロッパの主要国ともバランスを取った外交を展開しております。先ほどカザフstanの外交について説明しましたが、ロシア、中国、米国、もちろん欧州など、こういった国々とバランスを取った外交をしています。政治的外交はそうなのですが、しかし経済的にはロシアと中国との貿易が一番だろうと思われがちです。し

かしカザフstanの貿易高から見れば、実は一番の貿易相手は欧州なのです。ですから、欧州との関係がカザフstanにとっては最も重要です。上海協力機構のメンバー、また、集団安全保障条約機構(CSTO)、また、イスラム協力機構などのさまざまな地域協力機構に参加しています。カザフstanでは独立してから1992年に、初代大統領がアジア信頼醸成措置会議(CICA)を提案し、いまだにそれが機能しております。カザフstanは核の課題にも貢献してきています。先ほども話しましたが、カザフstanは軍縮・核不拡散を目指しております。核実験反対の国際日は8月29日ということが2009年に国連で決まり、核実験反対の国際デーになっています。これは何で8月29日なのかというと、1949年8月29日にソ連がカザフstanにおいて、初めての核実験を実施した日だからです。カザフstanは1991年に独立し、大統領が最初にサインした法令の1つとして、8月29日にわざわざ合わせて、核実験場閉鎖に関する法律としました。ですから、この日を国連に提案したら、日本からもサポートをいただき、共同提唱者として提出し、国連の決議で選択されたのです。中央アジア初の、先ほども言いましたが、国連安保理の非常任理事国となりました。また、ロシア、トルコ関係の改善にも貢献しています。多分、皆さんの記憶にも新しいかと思いますが、トルコの軍隊によってロシアの戦闘機が撃ち落とされた時に、これはもしかしたら本当に戦争になるかもしれないという危機がありました。ロシアのような大国とトルコのような大国が戦争したら世界はどうなるのだろうという、本当に危険な状況まで到達した時に、カザフstanが両国の間に入って、数カ月後にはソチで、ロシアの大統領とトルコのエルドアン大統領が会談し、握手して、そこで和解したという外交的に有名な話もあります。最近、カザフstanでは、コロナ感染者が増えたり、はやったりしましたけれども、ロシアの「スプートニク」と同じようですが、「カズ・ワク」といったワクチンを開発

し、接種出来るようになりました。カザフスタン国民だけでなく、周りの国々にも支援の実施をしました。2020年にはODAの実施機関であるKazAID(カズエイド)というのが設立されました。今までは先進国などから、もちろん日本も含めてですが、大きな援助を受けながら、経済基盤をつくってきましたが、これからは日本を含め、先進国とカザフスタンが協力し、周りの国々の面倒を見始めていかねばならないと言われるようになり、そのために支援機関としてKazAIDを作ることになりました。今、JICAとKazAIDが協力し合っているところであり、これからこれがニュースになると思います。

また、先ほど言いましたが、さまざまな国際機関がカザフスタンと積極的に取り組んでいます。2010年には、旧ソ連の中で初めて欧州安全保障協力機構の議長国となりました。OSCEといいます。初めてカザフスタンが旧ソ連の中で議長国を務め、加盟国56カ国の首脳たちがカザフスタンの首都アスタナに集まって、世界的に大きく注目されたイベントを開催しました。この時、首都のアスタナを整備しました。また、2011年には冬季アジア大会をアスタナとアルマティで開催しました。アジア開発銀行総会や、EXPOを行ったり、イスラム協力機構のサミットを行ったりしました。WTO(世界貿易機関)の閣僚会合ですが、これは2020年にアスタナで行われることになっていましたが、貿易等の関係で行われなくて、2カ月前にジュネーブで開催されました。こういった国際機関との関係強化が、カザフスタンの外交政策にあるのです。以上、簡単に紹介させていただきました。

次のスライドをお願いします。経済情勢の話です。これから日本との経済関係について、簡単に話をさせていただきます。先ほども話しましたが、カザフスタンは経済貿易高の17%は中国、ロシアは20%、一番多いのはやはりEUで30%弱です。米国とも政治的に大変良好な関係ではありますが、地理的な条件、つまり遠いということもあって、経済

貿易高は2%。その他は30%です。その他の中に日本も入っていますが、日本は米国くらいか、米国の下だと思います。残念ながら、日本の貿易高において、カザフスタンが占める割合は少ないのです。またカザフスタンの対外貿易の中でも、日本が占める割合はまだ少ない状態です。今後、これをいかに広げていくか、深めていくかがわれわれ外交官の仕事の一面でもあります。そのために、さまざまなレベルで、大企業だけではなく、中小企業などの協力を深めていくのが1つの課題になっております。カザフスタンはロシア、また、ベラルーシ、キリギス、アルメニア、タジキスタンといった国々と経済同盟をつくっています。これをユーラシア経済同盟といいます。しかし一方では、WTOにも加盟しているため、国際ルールなどに従って国際協調をすすめているところです。

交通エネルギー産業社会の整備、また、中小企業の発展、改革を行ってきております。2020年は石油の価格が下がったりコロナウイルスもあったりして、マイナスに悪化してしまいました。IMFの推測によると、去年はマイナス4.1%になり、今年の10月の時点でプラス2.23%までの経済成長率がありました。日本から何を買っているかということ、もちろん日本は自動車大国ですから、日本から自動車を買っています。千葉社長たちのように、カザフスタンに行かれている方々は分かるかもしれませんが、トヨタ車は大変注目されており、カザフスタンでは常に目にすることができます。われわれが東京でトヨタのランドクルーザーに乗っている人を見たら、これはカザフスタン人ではないかと思えます。またカザフスタンで車に乗っているような感覚になります。つまりトヨタの車はカザフスタンのために作られているのではないかと思うほど、カザフスタン人は皆、トヨタが好きです。トヨタのランドクルーザー一車を買ったり、日本製のタイヤを買ったりしています。逆に日本に何を輸出しているのかということ、先ほども話しましたが、やはり資源です。一番多いのがチ

タン、ウラン、レアメタル、その他に石油、石炭もあります。そういったものを輸出しております。これがわれわれとしても、貿易高から見て、金額的に高いものです。われわれが売っているのは資源で、買っているのは機械です。数字的な観点で見れば、カザフスタンは完全に黒字で大変に良いのですが、付加価値という観点で見ると、やはり負けているのが1つの課題です。われわれとしても日本に対して付加価値の付いた製品を売りたいというのが1つの課題であり、夢でもあります。カザフスタンの資源を資源のまま輸出するのではなく、先端技術をカザフスタンに輸入し、その技術によってカザフスタンの資源を開発し、製品化してから海外に輸出する、そういったことをこれからしていかなければならないのです。今までもそうでしたが、それが大きな課題です。そのためには日本の技術も必要ですし、パートナーとなる日本のIT企業も必要ですので、われわれ外交官はそれを仕事とさせていただいているところです。

次のスライドをお願いします。日本との関係話を話しますと、先ほど少し触れましたが、日本がカザフスタンの独立を最初に独立を承認した国の1つであり、92年1月に日本との外交関係が樹立しました。今年が外交樹立30周年記念ということです。本日のイベントも30周年記念の中で行われているイベントです。カザフスタンが日本に大使館を作ったのが96年2月です。この会場に私と長くお付き合いしている日本人がいっぱいいます。カザフスタン大使館が出来た時から付き合っている方です。今回のこのイベントの話も、この方を通して紹介いただいています。赤尾敏社長です。中国ではなく、中央区だという笑い話は、赤尾社長が大使に伝えたところから始まりました。大使のせいではなく、伝え方の問題だったのだと思います。

カザフスタンに今、120人くらいの日本人がいっぱいいるという話ですが、カザフスタンは人口が少ない割に、逆に日本に来ている人は2倍ほどであ

り、400人以上が日本にいるという話しです。

私が日本語を勉強し始めた時が94年、その時、大統領が日本に来たというニュースがあり、日本とカザフスタンは深くつながっていくのだということを感じました。これが学生の時です。それから大統領が5回も訪日し、その後も議長や首相も来たりしています。日本で初めて現役総理としてカザフスタンを訪れたのが、小泉純一郎総理でした。2006年8月30日にカザフスタンを訪れて、31日に日本に戻ってから辞任しました。カザフスタンで何かあったのではないかと思われるほど、その日のインパクトは強かったです。その後、安倍総理が2015年にカザフスタンに来ました。安倍総理とナザルバエフ大統領は6回会っており、その中で3回は私が通訳させていただきました。安倍総理はそういった意味でも、個人的にも親しみを感じた政治家でしたが、あの暗殺事件はいまだにショックです。

最後のスライドをお願いします。日本との関係性で少しか補足すると、今年が外交樹立30周年を迎え、今年4月29日には林外務大臣がカザフスタンを訪問し、カザフスタン外務大臣との会談を行い、大統領にも表敬訪問を行いました。その後、9月26日には、カザフスタンの外務大臣が、安倍元総理の国葬に参加するために来日しました。また、先ほど遠藤利明先生のほうから話がありましたが、12月にカザフスタンの外務大臣が、東京で開催される「中央アジア+日本」の外相会合に参加する目的で来日する予定になっております。2011年、カザフスタンとの友好議連の会長に遠藤先生が就任されて、幹事長に西村経済産業大臣が就任されました。こういった方々の力も頂きながら、われわれ大使館としては、両国の関係をさらに深めていくため、微力ながら一生懸命頑張っていきたいと思っております。今後も皆さま方のご協力、ご支援を引き続き頂ければ大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上で私の講演とさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

(拍手)

司会者：クルマンセイト講師、誠にありがとうございました。参加者の方からどなたかご質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。

質問者：バトルハン講師、素晴らしいご講演ありがとうございました。カザフスタンという国に私は行ったことがありません。ただ、モンゴル国は友人と一緒にビジネスをしているものですから、モンゴルのお隣ですので行きたいと思っていたのです。ただ気持ちに少しハードルがあったりしまして。しかし、今日の先生のユーモアを交えたお話しをお伺いいたしまして、カザフスタンにはこんなに素晴らしい方がいらっしゃるのであれば、ハードルはだいぶ低くなったという気がしております。ありがとうございます。

質問ということですが、先ほどビジネスの内容を拝見させていただき、日本からまだカザフスタンに36社しか行っていないということで、私としては大変にびっくりいたしました。私の親友はモンゴル人たちです。カザフ族の方は非常に優秀な方が多くいます。その中で、仲の良い親友の1人の女性ですがカザフ族でした。このように少し国境を越えれば自分の友人もカザフスタンにいるわけですね。そんなことを考えると、これからカザフスタンとの交流はどんどんすべきです。モンゴルの国に比べ、かなりリッチな国で、資源もたくさんありますから。プライベートジェット機を所有されている方もたくさんいらっしゃると思います。そういう意味で、真剣に先生のお話をお伺いさせていただきました。1つご質問させていただきます。首都移転をされたと思うのですが、その首都移転の時に建築家の黒川紀章先生のプランを採用してくださったと聞き、私としては大変に興味を持ちました。首都移転は日本もいずれやらなければならないことでもございますので、何か参考になる部分がありましたら、お聞かせいただければというふうに思っている次第でございます。

クルマンセイト：ありがとうございます。モンゴルまで行かれているのに、カザフスタンに行かれていないというのは大変残念ですね。大きさで見れば多分、モンゴルと国土が同じぐらいであります、確かにカザフスタンにはモンゴルから来て、カザフスタン国籍を持っている方もいますし、モンゴルに残っているカザフスタン人もたくさんいます。世界で今、遊牧民の生活を送っているのは多分、モンゴルにいるカザフスタン人しかいなくなってしまうと思います。モンゴルからカザフスタン人が独立したのにも関わらず、カザフスタンに戻った人たちの一部がまたモンゴルに戻るのでしょうか。それはカザフスタンが大きな国土を持っているにも関わらず、遊牧生活のやり方を忘れてしまったからです。このため遊牧生活を中心とするカザフスタン人たちは、モンゴルに戻ったりします。多分、カザフスタン行ったら人生が2つに分かれます。本当に分かれます。カザフスタンに行くまでの人生と、行ってからの人生です。ぜひ行っていただきたいと思います。カザフスタンだけではありませんが、中央アジアの5カ国は最も紳士なアジア人です。顔も日本人に非常に似ています。何で紳士的なのかという歴史的な背景があるのです。自国から戦争などしたことはありません。植民地だったり、植民地にされたりしたこともありません。互いの国々同士の文化的、歴史的、国境問題もありません。アジアの中では、周りの国々と国境をしっかりと決めている国はカザフスタンしかありません。ほとんどのアジアの国々は、隣の国との国境問題があります。隣国との国境問題がないのはカザフスタンだけです。また、日本との間に歴史的に何の問題もありません。日本人とカザフスタン人は大変に紳士的です。中央アジアの人たちは日本人と一緒に仕事をしていきたい、日本人と一緒に会社を作りたい、日本人から何か買って日本で何かを売りたいという気持ちがあります。多分、日本を大好きなのは中央アジアの国々だと思います。ヨーロッパの国々がアジアの国々のほとんどを植民

地にしている時に、カザフスタンと中央アジアはロシアに取られたのです。ロシア帝国に。その時に中央アジアは独立を目指したのです。アジアで植民地にされなかった国は、唯一日本だけでした。日本から何か学ぶことがあるのではないかと、その時の有識者たちは日本から学ぶことがたくさんあると言い残したのです。そういった中で、日本はロシアと戦争して勝ってしまったわけです。ロシアから領土を取られているのがわれわれです。ロシアには領土を取られたくないわけです。ロシアに弱くなってほしいわけです。このように日本から遠い国である中央アジアは、日本を応援したいわけです。日本がもっともっとロシアに勝ってほしいと。結局ロシア革命も、日本に負けたためにロシア革命が起きたということも歴史的事実でしょう。独立したカザフスタンが、アルマティからさらに首都を遷都した時、47人の建築士さんの中から日本人を選んだわけです。これも日本に対するカザフスタン人の考え方だと思います。アメリカ人もいれば、フランス人もいれば、イギリス人もいれば、日本人の黒川紀章先生もいました。大統領はそれなら日本人をと決めました。もちろん選考委員会があって、きちんと選考委員会で決まったのですが。最終的に大統領が決めたという話しです。今、初代大統領の名前が付いた大学があります。カザフスタンでは唯一英語でしか勉強できない、国際スタンダードでつくった大きな大学があるのです。アメリカの大学教授たち、ヨーロッパの有名な大学教授たちが集まって、英語でしか勉強できない国際大学です。この大学の学長は茂夫勝先生とって、日本人の方なのです。大学が出来てから、ずっと10年以上も学長をやっているのです。あとは、遠藤利明先生が日本のカザフスタン議員連盟の会長ですが、カザフスタンの国会でもそういった議員連盟があるのです。その会長が誰かというと、JICA（国際協力機構）で8カ月、山梨県で8カ月勉強し、日本語が話せる人が今回、国会議員になりました。その国会議員が会長を務めているので

す。仕事をきちんとしていないのに偉そうなことばかり言っている大きな商社マンたちは、カザフスタンからラブコールが足りないと言っています。しかしわれわれから見れば、これ以上の日本へのラブコールはありません。独立しばかりで新しい首都をつくる時に、その基本設計を誰に任せるかという、日本人にお願いする。新しい大学をつくって、これから国際スタンダードの大学をつくる時に、それでは学長は誰に任せるかという、日本人に任せる。カザフスタンを無視するのは、大きな商社の人たちにも責任があるかと思います。カザフスタンとの協力は、日本企業のため、日本の技術のためにもなります。多分、これから中小企業にもチャンスがあります。皆さまが思っている以上に、カザフスタンにはビジネスチャンスがあるはずですし、今後、日本と一緒に仕事ができる機会はたくさん増えると思います。回答になったかどうか分かりませんが、是非1度はカザフスタンに行ってみてください。お願いいたします。ありがとうございました。

講演1 「遙かなる国カザフスタンー民族・国境を超えて ～ウラルスク省エネルギーモデル事業 日カの架け橋～」酒田共同火力発電株式会社 取締役社長 千葉秀樹氏

千葉：皆さん、こんにちは。ロシア語で言うと「ダブルイ ジェーニ」ですね。こんにちはということになります。

先ほどクルマンセイト公使がカザフスタンについて話されてましたが、私は、カザフスタンに行って人生が変わった1人です。私からは、私とカザフスタンとの繋がり、カザフスタンと酒田の交流に関して、そのきっかけや内容などについて、いろいろお話ししたいと思います。

タイトルは「遙かなる国カザフスタン 民族・国籍を超えて」～ウラルスク省エネルギーモデル事業は日カ友好の架け橋～ということで、お話しさせて

いただきたいと思います。

まず始めに、私が、何故カザフスタンとつながったのか、要はカザフスタンに何をしに行ったのかということをお話しします。この写真は、ガスタービン・コジェネレーション設備となりますが、この設備の建設のためカザフスタンに行きました。2004年の8月から2007年の3月までの2年半にわたって、日本とカザフを行き来しながらプロジェクトに従事したということになります。この間にクルマンセイト公使にいろいろとお世話になり、その関係が今も続いているということです。

そのプロジェクトは、NEDO 殿の省エネルギーモデル事業というもので、要は、日本国において既に実用、導入されたエネルギー有効利用技術を、未だ当該技術の普及が遅れている関係国のエネルギー多消費産業施設等に適用することにより、有効性を実証し、定着・普及を図るという事業でした。そのため、カザフスタンのウラルスクというところに行き、省エネモデル事業に従事し、既設ボイラー・コジェネレーション設備から高効率ガスタービン・コジェネレーション設備へのリプレースを実施しました。高効率ガスタービンは、日立製作所製でした。高効率ガスタービンに取り換えると熱効率が上がり、CO₂発生量を削減できることとなります。最終的には、その日本製高効率ガスタービンのカザフスタンに普及させるということが目的となります。私は、以前東北電力に在籍してましたが、その際に東北電力が NEDO 殿から事業の委託を受け事業に関わったということになります。

これがそのプロジェクトのスキームになります。NEDO 殿とカザフスタンのエネルギー鉱物資源省、天然資源・環境保護省、西カザフスタン州政府が基本協定書を結び、NEDO 殿の下に東北電力と三菱商事が入り、その相手としてジャイク・テプロ・エネルギー (JTE) という熱電併給所を運営している会社と協定附属書を結んでプロジェクトを実施したということになります。そして、発注者は、ウラルスク

市と西カザフス州となっていました。

まず始めに、私の目から見たカザフスタンの紹介を行いたいと思います。カザフスタンとはどんな国かという話ですが、先ほどのクルマンセイト公使のスライドの中にもいろいろなデータが出ておりましたが、私のデータはちょっと古いですので、公使のデータをご参考にいただければよろしいかと思います。ひとつお話しておきたいのが「スタン」についてです。中央アジアの国々には、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタンなどがあり、国名に「スタン」と付きますが、「スタン」とはどういう意味かということです。「スタン」というのは、「地域」や「国」という意味なんですね。どうも日本人にとっては、「スタン」というのとアフガニスタンのイメージがあり、タリバンとかイスラム国とかアルカイダを思い出し、イスラム教は怖いと思っている人が多いように感じます。しかし、実際、カザフスタンに行ってみると認識が変わります。全然違いますよね、怖いと思っているイスラム教徒が、全くフレンドリーなんです。向こうで伺った話ですが、カザフスタンは広大な国なのですが、西部、中部、東部でそれぞれ大民族が暮らしていたらしく、その大民族の下には中民族がおり、その下に小民族がいて、さらにその下に小小民族が枝分かれしていたんですが、いまだに頑なに守れているのが、小小民族の中で7代前までさかのぼって同じ血族だった人とは結婚しないということです。それと割礼ですかね。そういったことが、いまだに頑なに守られている伝統ということで伺っていました。この件について間違っていれば、後ほど公使のほうから訂正していただければ幸いです。本当にカザフスタンは、いろいろな民族が集まった他民族国家ですが、日本人にとってはフレンドリーな国だと思います。

カザフスタンには、どうやって行くのかという話ですが、我々は仙台で仕事をしていましたので、仙台からは韓国のインチョンに向かい、そこからカザフスタンのアルマティ、さらにウラルスクへと向か

いました。今は、確か成田とアスタナ直通便があるかと思うのですが…。日本の韓国便がある都市からなら、インチョン経由でカザフスタンには行き易いかと思います。仙台からですとインチョンまで2時間から2時間半、インチョンからアルマティまで6時間から6時間半といったところですね。その際、アルマティで1泊し、次の日ウラルスクに向うという行程でした。ウラルスクは、カスピ海の北約500kmに位置し、ほとんどロシアの国境に近いところです。そこまで行っているいろいろ事業を実施したということです。

カザフスタンの自然ですが、人口150万人のアルマティ、大きな都市ですが、そのすぐ近くに5~6,000m級の山があります。天山山脈の支脈・アラタウ山系といいますが、そのシンブラクが、夏も冬もいいところです。前回の冬季オリンピックが北京ではなくカザフスタン開催であれば、確かこの場所で開催されたはずです。我々は帰国の際、アルマティからの日本に帰る便が夜のため、昼間によくシンブラクに行ったりしました。そこで山を見ながら生ビールを飲み焼肉を食べたらもう最高です。本当にやめられないくらい良かったですね。

シンブラクへ行くと、いろいろな国の人、インド人やロシア人の方とかが観光に来ていました。「一緒に写真を撮りませんか」とお願いしたら、皆さん「いいですよ」となり、みんなで一緒にフレンドリーに写真を撮ったりしました。

カスピ海もちょっと見てきました。私が、初めてカザフスタンに渡航した際に、普通はインチョンからアルマティ、アルマティから直接ウラルスクへ行くのですが、その時は、今後のリスク管理を考えると、いろんなルートを開拓しなければならないということで、アルマティからアクタウというカスピ海沿岸の町、それからアティラウ経由でウラルスクに行きました。当に各駅停車の航空便という感じがしました。アクタウでトランジットの際に、2、3時間、時間に余裕があり、その時に、アクタウ在住のクル

マンセイト公使のお友達であるカザフスタン空手道協会会長の息子さんがランクルで我々をカスピ海見学に連れて行ってくれました。昼食では、チョウザメ料理をいただいたという記憶があります。陸地では、地平線が遥かかなたまで見え、その中をラクダがゆっくり歩いている風景は素晴らしいものでした。また、カスピ海も本当にきれいでしたね。

さらに、シャルカル湖という湖もあります。そこはウラルスク市街の南方3、40キロぐらいのところですが、ステップの中を車で行くと、その中に忽然と現れてくる湖で、本当に砂漠の中のオアシスみたいな感じがしました。そこには、向こうの方々が結構、休暇、余暇利用で遊びに行かれていたようです。湖の畔にヨールタという大きなテントのようなものがあるのですが、モンゴルでは、ゲルといったかもしれません。昔の遊牧民が使ったようなテントを休憩所にして、湖水浴や食事を行い遊牧民になった気分之余暇を過ごすということもやったりしました。

この写真はウラルスクでのものです。ウラル川という川があり、昔ながらの渡しがありました。ワイヤーを張った渡しなのですが、私が小さい頃に、地元の川にあったようなものです。この渡しで対岸へ渡るのですが、渡った後に誰かが渡しを使い向こう側に乗っていくと、こちら側にその渡しが戻ってこないに戻れないという状況になってしまいます。非常に暇な時間を過ごしてしまうことになってしまいます。季節が変わり冬になりますとウラル川は全面氷結してしまい、そのような渡しがなくても、川の兩岸を行ったり来たりできるようになるところでした。

この写真は、首都のアスタナです。この都市は、人工都市ということになります。アスタナには、アスタナタワーというタワーがありますが、このタワーは黒川紀章さんがデザインしておりエッフェル塔を逆さまにした形とのことでした。私も何度か訪れたことがあります。その周りに国防省、大統領府などがあります。この写真は昔の写真のためちよっ

と古いのですが、現在では、かなりいろいろな新たな建物が建っております。アスタナ空港は、確か、日本のODAを活用し建設されたようです。アスタナ空港が日本のODAを活用され建設されたことがトイレに行ったら分かりました。カザフスタンに行ったらTOTO製の便器を使用しているのはアスタナ空港だけでしたので。これは凄いな、なるほどと思った次第です。

この写真は、我々が事業を行っていたウラルスクの街です。ウラルスクは人口20万人ぐらいの都市ですが、緯度が高いため夏は、夜になるのがかなり遅く、子供たちは午後10時頃まで外でサッカーなどをして遊んでました。逆に、冬はすぐ夜が来るといことです。

この写真は、イスラム教のモスクと、キリスト教・ロシア正教会の建物です。カザフスタンの宗教はイスラム教ということですが、ロシア人も住んでおりロシア正教もあるわけですね。そのようなことから、カザフスタンは、いろいろな宗教の人たちが本当に仲良く過ごしている国ということが分かります。非常に平和的な国だなという印象です。

これは、ウラルスクの中央バザールの写真です。バザールに行くと、いろいろな野菜、果物、肉、さらに日用品など、ありとあらゆるものを手に入れることができます。我々は、ウラルスクに滞在している際に、たまに天ぷらなど日本食を作ったりしていました。ナスの天ぷら作りたくなりバザールへナスを買いに行ったことがあります。ナスのことをロシア語で「バクラジャン」といいますが、バザールで「バクラジャン アジン パジャールスタ」(ナスを一個ください)と言ったら、「売れない」と言われてしまいました。何故かというバザールは、野菜をキロ単位でしか売らないんですよ。それで「1個だったらあげるよ」と店の人に言われてしまい、ナスを1個もらって帰り、天ぷら作ったということがありました。

この写真はアルマティの日本人墓地です。今の若

い人たちは分からないかもしれませんが、第二次世界大戦敗戦後、大陸でソ連と戦っていた日本軍の人たちはシベリアへ抑留されました。さらに、カザフスタンやウズベキスタンにも連れて行かれ強制労働させられたわけですが、現地で亡くなった方々のお墓が、今もアルマティにもあり在留邦人の方たちが1週間交代でお墓の掃除を行っていることを、当時現地で伺いました。こういうことは、今の日本人としても知っておくべきことではないかと思ひ、私もお墓をお参りに行ってきました。

これはアティラウの町の写真です。皆さんは、アジアとヨーロッパの境界となると、トルコの方ですと、ダーダネルス海峡やボスポラス海峡という印象をお持ちかと思ひます。一方、ユーラシア大陸の方となると、ヨーロッパとアジアの境とは何処かと疑問に思われている方も多いのではないかと思ひます。それが実際存在します。この写真がそれです。ロシアのウラル山脈からカスピ海に注ぐウラル川が、ヨーロッパとアジアの境界となっています。この写真に円形の看板が写っていますが、片方はアジアと書いてあり、もう片方にはヨーロッパと書いてあります。そのようなことから、北に向かってウラル川の左岸がヨーロッパ、右岸がアジアとなります。今回初めてアティラウを訪れ「へえ、大陸のヨーロッパとアジアの境はここなんだ」と理解しました。ちょっと橋を渡ればヨーロッパとアジアを行き来できるのではと話ししたことがあります。

これはカザフスタンの食べ物の写真です。こちらはラグマンとベシュバルマックという食べ物です。ラグマンは、ウイグル料理だったかと思ひます。こちらのベシュバルマックが本当のカザフスタン料理となります。両方とも美味しいです。ラグマンの麺は、稲庭うどん系、讃岐うどん系のような種類があるようですが、私は、讃岐うどん系の方が好みでした。NEDO 殿の理事長さんもラグマンはおかわりされてました。おかわりされる方を、初めて拝見した次第です。ベシュバルマックは馬肉を使った料理で、

本当は指で取って食べるものです。そのため「5本の指」という名称になっていますが、今は、フォークやスプーンを使用し食べられています。この料理は、カザフスタンの伝統的料理で、各家庭で作りが違っているようです。非常においしい料理で、特に馬肉が美味しかったという記憶があります。

これはシャシリクという焼肉の写真です。シャシリクには、スピニーナ（豚肉）、バラニナ（羊肉）などがありましたが、羊が非常に美味しかったですね。その他、クーリツァ（鳥肉）も非常に美味しかったですね。値段も安くて最高に美味しかった食べ物です。

この写真は、カザフスタンで、道路脇でもよく売られているスイカやメロンの写真です。酒田でも季節になると道路脇で売られていますが、日本円で、このスイカが当時 300 円、メロンが 100 円ぐらいでした。そういった物を買ってきてみんなで食べたりしましたね。こちらは、我々が仕事していた熱電併給所の食堂の昼食です。当時、ボルシチ、パンなどを含めて大体 200 円だったとの記憶があります。

これは、アルマティの寿司屋のお寿司の写真です。この寿司ネタは、たしかドバイから空輸して持ってきていたかと思います。カザフスタンでもしっかり寿司が食べられるということです。また、スーパーに行き驚いたのですが、干したサンマも売られてました。ウラルスクでの話です。これは絶対、三陸沖もしくは北太平洋で獲られたサンマではと思いましたが、こういう日本の食文化もカザフスタンにも伝わっているということですね。

こちらは、余暇を過ごした時の写真です。長期に亘りカザフスタンで仕事をしていると、やはり余暇の過ごし方も大事になってきます。その際にロシアンビリヤードも行いましたが、これはクルマンセイト公使に教えていただきました。魚釣りに行った際には、向こうの子供たちが餌のミミズ取ってきてくれたりしました。釣った魚は、猫の餌にするというのを聞いていましたので子供たちにあげました。ま

た、ハイキングやナイトクラブに行ったりもしました。日本人がカラオケに行くように、カザフスタンの方たちはナイトクラブに行き踊られていました。向こうは飲んで踊ってという文化ですね。ナイトクラブに行くと、いろいろな民族の人たちが来ていて、例えばグルジア人の一団がいたりすると、そういった人たち自国の民族の踊りを踊ったりしていて、非常に民族情緒が豊かでしたね。その他には、日本食パーティーなども行っていました。

この写真は、われわれのプロジェクトを支えていただいた優秀なカザフスタンの通訳の方々です。左上の写真の真ん中が、クルマンセイト公使の若い時です。この通訳の皆さんにプロジェクトをバックアップしていただき非常に助かったということです。

それでは、「モデル事業では、どんなことやったの？」という話です。発電所を建設するというところで、まず基礎工事から行いました。何も無いところからいろいろな設備の基礎工事行っただけですが、向こうで感じたのは、日本は地震国のため、地震を考慮し基礎を設計して造っていますが、向こうは古い大陸で大きな地震がないため、至ってシンプルな基礎だなという感じがしました。

これはメインのガスタービンの写真です。これは日本から輸送したものです。モデル事業では、機械設備は日本が提供し、基礎工事も含め建設工事はカザフ側が行うというスキームになっていました。日本から設備を輸送する際に、輸送ルートをいろいろと検討しております。最初は、シベリア鉄道を活用してカザフに輸送するという計画もありましたが、ガスタービンなどがトンネルを通らないということが判明し断念しております。そのため、黒海方面を経由し船で輸送を行い、その後、陸路による陸上輸送にて現地に搬入しました。ガスタービンなどの据付の際は、設備が非常に重く、日本だったら大型クレーンで一気に基礎上に据付けますが、当時ウラルスクにそのようなクレーンがなく、ジャッキアップ工法という、かなり昔に日本が行っていた工法で据

え付けを行いました。そういった苦勞がありましたね。

これは発電機を基礎まで移動する際の写真です。輸送路が、雪が溶けどろどろとなり、ぬかるみにトランスポーターがはまってしまい輸送できなくなった状況です。どうしたらよいかと思いましたが、カザフスタンの人たちから「いや、これは、もうちょっとすれば大丈夫だよ」と言われたんですよ。何故かという、もうすぐ急激に気温が下がるからということでした。実際に、2、3日もすると気温が下がり、輸送路がかちんかちんに凍り、ジャッキでトランスポーターを窪みから上げることができ、発電機も移動できるようになったわけです。現地の人たちの経験からくる知見に、「なるほどな」と思いました。

これは HRSG (排熱回収ボイラ) という設備の据付の写真です。これはクレーンを使用して据え付けましたが、そのクレーンは鉄道クレーンでした。建設サイトの近くに鉄道の駅があり、そこから線路をサイトまで延長して搬入したのですが、やっぱり向こうの鉄道文化すごいと思いました。短期間で駅から線路を建設サイトに引き込みクレーンを導入するようなことは、日本ではなかなか見られず、日本とまた違ったところあることが分かりました。

これはガスタービンを基礎に据え付けた後の写真です。カザフスタンの技術者の人たちと一緒に撮った写真ですが、プチプロジェクト X 的な感じもします。右下の写真は、左官職人の方々と撮ったものです。その際に驚いたのが、日本ですと左官職人は、通常男性というのが当たり前ですが、カザフスタンでは女性が行うのが当たり前ということです。

これは、プロジェクトでのイベント、機械着工式の写真です。設備の据え付けにあたって、一つの区切りとして機械着工式を行いましょうということになり、東北電力からも代表が来て、基礎ボルトを締結するようなイベントを行いました。

これは機械着工式の記念パーティーの写真です。

写真の奥の方に、当時の角崎大使が写られています。いろいろな方においでいただきましたがコンパニオンの方は民族衣装を着て対応されていました。西カザフ州知事への表敬訪問も行いました。

これは東北文化紹介フェアの写真です。先ほど、クルマンセイト公使もお話されました。パネルに東北の自然、文化芸能などの写真を印刷し、その下にロシア語とカザフ語の翻訳を掲載しましたが、その翻訳のほとんどをクルマンセイト公使が行われたということです。東北プラス新潟の話になりますので、標準語ではなく東北弁が出てくるわけです。例えば、秋田のなまはげのところで「泣く子はいねえが」という言葉が出て来て際には、公使より「これ、どういう意味ですか?」ということにもなりました。その方言を標準語に翻訳し公使がカザフ語とロシア語に翻訳されたという苦勞もありましたね。

クルマンセイト：ロシア語も分からないカザフ人がおり、カザフ語がおかしいと言ってきたんです。

千葉：東北文化紹介フェアを実施して良かったのは、学生さんたちがたくさん来ていろいろと見てくださり、1つの交流ができたのかなということです。

ウラルスクには、日本人がいないんですよ。我々は数人でウラルスクに滞在していましたが、「世界の村にたった1人の日本人」みたいな状況でした。そのような状況でしたので、学生さんたちは日本人と接するのが初めてで、受付の際に「何か日本語を書いてくれ」ということにもなりましたが、自分の名前を漢字で書いて、それを学生さんたちにプレゼントしたりしてました。ちなみに、右下の通訳の人は小泉総理に似ており、みんなで小泉さんと呼んだりしてました。

これは試運転前のミーティングの写真です。試運転業者はロシア人の方で、アンドレイ氏とコニョホフ主任技師 (右側) という方たちでした。白板に当日の試運転スケジュールを私が記載し、それを基にいろいろ打ち合わせを行いました。

これは試運転時の中央制御室の写真です。やはり

国と国とが関係するプロジェクトでしたので、大統領府の方が視察に来られたりもしました。

これは、初めて電気が発生した時の写真です。普通、日本ですとお祝いの「くす玉」を割ったりするのですが、ウラルスクにはそういうものが無かったため、白板にプロジェクトに参加した企業の名前を書いてお祝いをしました。

これは、プロジェクト関係者で撮った写真です。これを見ると、本当にいろいろな国の人がいます。日本人、カザフ人、ロシア人、タタール人そして韓国人と。そういった人たちが一緒になってチーム東北ということで、このプロジェクトを遂行していただいたのは非常にありがたかったですね。

これは竣工式の前日の写真です。右から2番目の方が山形ご出身の伊藤在カザフスタン日本大使です。ただ残念だったのが、ナザルバエフ大統領が外遊中でアメリカからカザフスタン・ウラルスクに直接入るはずだったのですが、急遽、イギリスのブレア首相と面談することになったためウラルスク到着が遅れることとなってしまいました。そのため伊藤大使は、日程の都合で竣工式に出られなくなってしまいました。非常に残念がられていらしたのですが致し方ないということでしたね。

これは竣工式の様子です。こういう形でレッドカーペットを敷き、そこを大統領が歩かれました。

これは、ナザルバエフ大統領が来られて挨拶された場面の写真です。

これは普及活動において、カザフスタンの方々にプレゼンテーションを行った際の写真です。会場にたくさんの方々が来られ聴講していただきました。

これは、私がプレゼンしている際の写真です。

これはモデル事業終了後の打ち上げの写真です。カザフスタンの方々とモデル事業の成功を記念して打ち上げをしましよとなり開催しました。白いスーツ着られてる方が、西カザフ州電力局副局長のサブルガリーエバさんです。その右側が、JTE所長のセイテノフさん、技術部長のナリマンさんなどと

なりますが、モデル事業に携わられた方々にお声がけて開催しました。

この写真は、われわれが滞在していた宿舎です。エルダニホテルというところでしたが、ホテルというより日本でいうと民宿みたいなところでした。ホテルの周りに牛やニワトリが放し飼いになっていました。

この写真は、通勤に使ったバスです。ボンネットバスです。日本の若い人は見たことがないかと思います。

これは、我々が試運転以降に滞在したプーシキンホテルの写真です。一度ここを退去したことがあります。ロシアのプーチン大統領がウラルスクに来られたときに、プーチン大統領が宿泊するということで追い出されました。もしかすると、プーチン大統領が泊まった部屋に我々も泊まったのかもしれない。

これは、カザフスタンの事業者の方々との交流の写真です。左側の方、JTEのエリック部長さんですがプーチン大統領に似ていたので、我々の間ではプーチンさんと呼んでいました。

モデル事業の実施中に結構いろいろなアクシデントが起きました。ここに記載したのがその内容です。やはり必要な資機材がなかったりしたのが大変でしたね。さらに渡航メンバーの具合が悪くなり、真夜中に救急車搬送されるなどし、その対応に非常に苦労したことがありました。

ただ、そのような中でも学べたことがありました。こういう国際関係のプロジェクト、民族が違ってても、やはり人と人の信頼関係が大事だと思いました。信頼構築のためには、同じ目線に立っての双方向のコミュニケーションが一番大事ですね。私もウラルスクに行った際には、朝に必ず現場に行って先方の事業者の人たちに「ドーブラエ ウートラ(おはよう)」「カーク ヴァス ディラ?(元気ですか?)」と挨拶をしていました。そういうことを毎日行って、お互い知り合えるようになったのではないかと思います。

す。また、カザフスタンで学んだのが、世界を相手に仕事を行う視点の必要性でしょうか。それが、ちょうど酒田の現在のことにもつながってきていると思います。

私が海外でいろいろ学んだことが地域活性化でも役立つんじゃないかなという思いがありました。自分の海外勤務の経験から、やはり海外プロジェクトの実施にあたっては、チャレンジ精神と人脈、自ら実践すること、そのようなことがないと、まずは先にプロジェクトが進まないのではないかと。これは地域活性化でも、同じことが言えるかと思っています。高野誠鮮さんという方がいます。この方は「ローマ法王に米を食べさせた男」と言われています。限界集落、石川県羽咋市神子原地区の改革を行った方です。ローマ法王に神子原地区で作った米を食べていただき、それが有名になり限界集落から脱却を目指したという話です。彼が話されるには、「地域はお金がないから疲弊するのではない。何もしないから疲弊するんです。私たちは、電気が切れたら新しい電球に換えますよね。だけど、疲弊した町では、役人も住人も「暗い、暗い」と嘆いてるだけ。しかも、その内容も、はしごから落っこちたらどうするって。そんなことばかりです。はしごによって上って電球を換えることをしなければならぬ。」と。当に海外事業を経験して学んだことが地域活性でも役立つのではないかと思っています。

吉田松陰先生が申された話です。吉田松陰先生は、幕末に酒田にも来られたことがあります。その松陰先生は、「夢なき者に理想なし。理想なき者に計画なし。計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」と申されています。裏を返せば、夢あれば成功の可能性あるのではないかということです。そこで、「酒田から世界へ 志高く」ということで、何かやれないかなという思いがありました。

まず自分ができるところを行おうということについてです。皆さんの中でもご存じの方がおられるかと

と思いますが「ハチドリのはつづく」という南米アンデスの先住民の間に伝わる民話があります。

森が燃えていました

森の生き物たちはわれ先へと逃げていきました

でも、クリキンディというハチドリだけは行ったり来たり

口ばしで水のはつづくを一滴ずつ運んでは、火の上に落としていきます

動物たちはそれを見て「そんなことしたって、一体何になるんだ」と笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

そして、この物語の続きは読者自身が考えてくださいということです。たった数行の短い物語なんです。奥が深いものを感じます。地域活性化を行っているある方の話なんです。市民、例えば酒田市民を地域活性化という視点で見ると、1割が志民、志を持ったタイプ。残り9割は死民、つまり死んだ民で誰かが何かやってくれるだろうと思ってる人。地域活性化は、その9割の死民を、どれだけ支民、支える民に変えられるかがポイントだと話されていました。つまりクリキンディのような人を増やすのが必要ではという話であり、なるほどと思った次第です。

そこで、地域で私にできることは何かと考えた訳です。酒田では、中国などへの輸出は行われているのですが、私にとっては、やはり昔の仲間がいるカザフスタンが対象として良いのかなと思った次第です。そのようなことから、「カザフスタンに何か輸出できないかな」何人かの方にお話したところ、酒田の方は、結構アグレッシブな方が多く、「面白いかもしれないね」となり、「それでは、カザフスタンに行ってみようか」ということになった訳です。このことが新聞にも載ったりしました。

その結果、6人でミッションを組んでカザフスタンに行くことになりました。そして、カザフスタンの外務省を訪問した際にクルマンセイト公使に面会

いろいろな情報交換をさせていただいたということです。

これは、カウンターパートとの交流の写真です。ラウエラさんというイベント会社の社長さんともお会いしましたが、彼女は、我々がウラルスクでイベントを行った際にいろいろとお手伝いいただいた方です。アルマティでは、元通訳の方々と会って懇談したりしました。通訳の方々は日本語を話しますので、一緒にカザフスタンに行かれた皆さんは「日本で懇親しているのと変わらないよね」ということになり、非常にアットホームな感じで交流できたということです。

そのカザフスタンでの交流を受けて、その後に、酒田にカザフスタンの留学生の方においでいただき、市役所が行っていたイベントにジョイントしたりして、カザフスタンのPRに努めたりもしました。それが山形カザフスタン友好協会設立のきっかけになったのかなという感じがします。さらにそのあとのことは、加藤会長からお話いただけます。

最後になりますが、今から数年前に、省エネモデル事業に関わった商社の方が仕事でウラルスクに行かれたときのお話です。商社の方が空港からタクシー乗ると、運転手が話しかけてきたそうです。「あなたは日本人か」と。その方は「そうです」と答えると、運転手は「今から10年ほど前に日本人がやってきて、われわれのために発電所を造ってくれたんだ。感謝してるよ」と。この話を伝え聞いて、カザフスタンのプロジェクトに関わり、ウラルスクの人々の記憶に残ることができ、そして、彼らになることができたと私は感じました。日カ友好の架け橋になれたのではないかとということです。

私の講演は以上でございます。この後は、加藤会長、よろしくお願いたします。

(拍手)

講演2 『カザフスタン in さかた』で結ばれた絆

山形カザフスタン友好協会 会長 加藤明子氏

加藤：私からは、「カザフフェスタ in さかた」で結ばれた絆」というタイトルをつけさせていただきました。今、千葉社長のお話を聞いていただきまして、その熱量に圧倒されたかと思います。これを私も酒田で間近に聞きまして、カザフスタンに対して大変大きな気持ちを抱きました。そして、訪問団によるカザフとの交流もございました。私は残念ながらまだカザフスタンに行ったことがありません。でも、もう何回も行ったような気になっておりますし、今日初めてお会いするクルマンセイト公使にも、何度もお会いしたような、そんな気持ちでおります。

山形カザフスタン友好協会自体、そんなに歴史があるものではございません。まずは、山形県酒田市をご紹介させていただこうと思います。酒田には「おいしいものしかありません」。当協会調べでございますけれども。海鮮はもちろん、芋煮会の芋煮鍋、メロン、そして刈屋梨。とってもジューシーな梨です。酒田はラーメンがとても有名でございますし、もちろん米どころでございます。そして、平田牧場や大商金山牧場といった、大変おいしい豚肉が名産でございます。本日は酒田市の交流観光課、阿部課長から「酒田さんぽ」という冊子を持ってきていただきましたので、後ほどじっくりとご覧いただきたいと思います。

そして、私とカザフスタンとの出会いというと、先ほど千葉社長のお話の最後のほうにございました、留学生の方々が酒田の「寒鱈まつり」という、お祭りに参加して下さったんです。寒鱈まつりってというのは、タラを全部丸ごとお汁にするんです。内臓なども全部煮るので、若い留学生の方々にちょっとグロテスクかなと思ひまして、「大丈夫ですか」と言いました。とてもきれいな若い女性が、「私はおばあちゃんの、ヤギの脳みその煮込みが大好きなんだ」というふうな話を聞きまして、とても興味があるし、異文化との出会いってというのはいろんな刺激にもなるなと思ひました。親日家だし、そして、見た目もとても日本人と似たよ

うな感じがしましたので、そういったところが非常に親近感を持ったわけでございます。

次、お願いいたします。そこで、カザフスタン写真パネル展というのを開催しました。これは、前の年に千葉社長と一緒に訪問メンバーがたくさん写真の撮ってきてくれましたので、その写真を皆さんにご紹介するという企画です。私には全くカザフスタンとの連絡の取りようがなかったので、いきなりカザフスタン共和国の大使館にお電話をさせていただきました。「実は今度、写真パネル展をやるんだけど、何かを貸してくださいませんか」。こんな飛び入りの電話に対して、非常に丁寧にご対応いただきまして、民族衣装とか民芸品とか、たくさんの小物を貸していただきました。それがこちらなんです。こちらは百貨店の一角を借りてのイベントだったんですけれども、百貨店ってということもありまして、多くの方々に立ち寄っていただきました。私、そこにいて気が付いたんですけど、皆さん必ずこの看板を見て「カザフスタン」と声に出して言うんです。多分、皆さんにとって、カザフスタンという言葉を使った初めての体験だったのではないかなと思うんです。字では見てるけれども、言葉にしたことがない。でも、これって、国際交流の本当に小さな第一歩なんじゃないかなと思いました。多くの方々に、このカザフスタンという国の存在を知っていただいた、そんな一歩だというふうに思います。

次、お願いいたします。気を良くして、2回目は同じ年の11月に「カザフフェスタ in さかた 2021」を開催いたしました。こちらでも、やはり大使館のほうからたくさんものをお借りいたしました。また、中央アジアバザールということで、民芸品も販売をさせていただきました。ギャップを楽しもうということで、酒田にごきます登録有形文化財の旧料亭「山王くらぶ」という場所を使用いたしました。こちらのイベントは地元紙のほか、ネットニュース、Yahoo!ニュースにも取り上げら

れまして、県外からも来館がございました。その中の期間中の1日、11月20日にはイベントを開催しました。ゲストのステージと教育交流、経済交流の3部門の構成でございました。

まずは、セレモニーとゲストのステージでございます。大使館から、アタッシュェのジャントスさんにご来酒いただきました。大使のメッセージを披露していただきました。そして、実は本日、この会場にもお越しいただいております、アクマラルさんをゲストにお招きいたしまして、歌や踊りを披露していただきました。かわいい娘さんたちとご一緒に来ていただきまして、すてきな歌と、そしてアグレッシブな踊りもご披露いただきました。

次、お願いいたします。そして、2番目には、国際交流を学ぶ学生同士の交流会ということで、地元の酒田南高校、そして、羽黒高校という高校で国際交流を学んでいる高校生、そして、カザフ国立大学の東洋学部日本語学科で日本の勉強をされている学生さんたちが、オンラインで交流会をいたしました。このコーディネートにはカザフのNRR社のグゼリャさんに、約10名の大学生を紹介していただきました。

次、お願いいたします。これは、山王くらぶの舞台上なんですけれども、グローバル専攻科や国際コースの生徒たちが自分たちの国を語り、そして、相手の国に対して質問し合うという形にいたしました。カザフの学生たちも、この右側のほうが、カザフの学生がつくってくれた資料なんですけれども、とても日本語で分かりやすく説明の資料も作ってくれました。

続いて、ジャントスさんを真ん中にして記念写真を撮ったんですが、ジャントスさん、とてもハンサムだったので、高校生たちからも大人気でした。それこそ、さっきのお話と同じように、サインを求められたりもしておりました。コメントをちょっと読ませていただきます。酒田南高校、今

は3年生となっております、サトウヒナさんです。

「皆さんが、アニメなど日本のことをよく知っていて、とても関心の高いことに驚きました。そして、今回の機会を得て、私自身も改めて将来の魅力を感じることができました。国際交流は、相手の地域も自分の地域も理解できる機会なのだと知りました」。そして、羽黒高校は校長先生が参加してくださいました。「欧米や東アジアの国々と比べ、学習の機会が少ない中央アジア、カザフスタンとの学生との交流はとても有意義であると思います。将来的には交換留学などの可能性も広がっていきたくらいですね」ということで、このオンラインの交流会は大成功でございました。

続いて。夜の部は、経済交流でございます。左側が、木川屋酒店というお酒屋さんのご主人ですが、山形の地酒をぜひ海外の方々に楽しんでいただきたい、その方法にはどんなものがありますかという質問でした。そして右側が、Oriori Japanの藤川かん奈さん。彼女はカザフ訪問メンバーの1人でした。彼女は、眠っている織物を活用したアクセサリを作っています。今日、われわれの胸にも、公使の胸にも飾られています、こちらのSDGsのバッジなんですけれども、山形に米沢織、米織という高級な織物があるんですけれども、そこで使われた残った残糸、残りの糸と書きます。残糸を使ったSDGsバッジなんです。こちらをカザフのほうでも、世界に発信していきたいということでお話をされました。

この藤川かん奈さんのお話が、その後カザフスタン女性経営者とのセミナーへの参加に続きました。カザフの女性経営者の方々が、女性起業家を増やすための支援策、そして、サステナブルな経営に関して、とても興味をお持ちということで、彼女の取り組みは今も現在進行中で続いております。

酒田で結ばれた絆は永遠に。両国の学生たちが学び合い、思い合うことを心から祈り、今後を楽

しみにしております。

そして最後に、私たちの大切な友人をご紹介させていただきたいと思います。先ほどご紹介いたしました、アクマラルさんでございます。皆さまにごあいさつをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

(拍手)

アクマラル：ご紹介ありがとうございます。皆さん、こんにちは。簡単に紹介させていただきます。私、アクマラルと申します。よろしくお願いたします。

カザフスタンの東のほうにあるセミパラチンスクというのは、旧ソ連時代の時に、核実験があったところなんですけれども、そちらのセメイという、元セミパラチンスク地に生まれたんですけど、子供の時には隣にある田舎に住んでいました。本当に核実験があったところの隣なんですけれども、子供の時には、外で遊んでる時には、日本から団体が来られて、いろいろお菓子とか頂いたりしたことがあるんですけど、子供の時から日本という国があるということを知っていたので、結構興味がありました。高校生の17歳の時には、セミパラチンスクには「ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト」の方々が来られまして、高校生を対象に面接試験を行ったんですけど、やっぱり日本に興味を持っていたので、日本行きたいなと思ったので、試験を受けてみたんです。約20人が参加したんですけど、その中では日本の国歌を、歌をうたったり、伝統的なカザフのダンスを披露したりしていて、試験に受かったんです。で、広島で1年間留学をさせていただいて、本当に貴重な留学経験でした。そこから日本に関して、日本への関心をもっと高まったのです。今は私、1人だけではなく、もう家族の全員日本に関心を持っていて、子供たちも日本語を勉強して、日本の文化、歴史が大好きなんです。現在は東京外国語大学、大学博士、後期課程の学生なんですけれ

ども、主に勉強してるのはカザフスタン教育における留学なんですけれども、その中ではキャリア形成を研究しております。先ほども加藤さまに紹介していただいたと思うんですけども、昨年度は酒田市で行われたイベントに参加させていただきました。この機会を与えて、参加させていただいた皆さまに、加藤さんと千葉さまに心より感謝を申し上げます。最後なんですけれども、今年度はカザフスタン独立 30 周年ですが、独立以降、日本およびカザフスタンの幅広い分野で関係が進化させていると思っております、今後とも、両国の関係が問題なく順調に進んでいくと思っております。ありがとうございます。以上です。

(拍手)

**日本-カザフスタン
外交関係樹立30周年記念講演会**

基調講演 クルマンゼイト・バトルハン駐日カザフスタン大使館公使
「カザフスタンと日本-平和への想いを共有する友好関係」

日時: 2022年12月5日(月)
13時30分(開場) 14時-15時55分(講演会)
16時-17時30分(交流会)
於: 衆議院第一議員会館 国際会議室
東京都千代田区永田町2-2-1

主催: 中央区ユネスコ協会設立準備会 共同主催: 山形カザフスタン友好協会
協賛: 駐日カザフスタン大使館 / (一社) 中央政策研究所 / (株) 経済産業新報社
(一社) 日本インバケーション融合学会 知のオリンピック実行委員会
NPO 日本ナレッジマネジメント協会 / NPO 内部統制評価機構

メッセージ
クルマンゼイト・バトルハン駐日カザフスタン大使館公使

今年度はカザフスタンと日本の外交関係樹立の30周年です。

外交関係を継いで以来、両国が様々な分野における協力が積極的に進められてきており、現在「拡大された戦略的パートナーシップ」レベルにあります。政治・外交分野だけでなく、経済・貿易、また文化・教育といった分野において協力が進んでいます。

このように、カザフスタンと日本は、政治的にも、歴史的にも、地理的にも、別の国として、極めて友好的な関係にあります。これらの分野における交流を更に深めていくことが重要であり、我々としては今後も積極的にいきたい所存です。

また、カザフスタンと日本は、両国の関係だけでなく、共同で国際社会の安定・安全確保にも貢献できると確信しており、両国関係及び国際社会における協力を更に進めたいと考えています。

現在は、両国の間に相互信頼の政治対話が確立されており、ハイレベルの首脳会談、政府間関係と並び、両国の国会間での交流も積極的に進んでいく予定です。

そして、もっとも重要である民間交流、人的交流を更に深化させて行く所存であり、この度このような交流会を心より歓迎致します。

主催者並びに関係者の皆さまに深くお礼申し上げます。

日本-カザフスタン外交関係樹立30周年にあたり、心からお祝い申し上げます。また、近年にわたる国際平和の実現に向け尽力されているUNESCO関係者の皆様にも感謝を申し上げます。

中央アジアの途かなる国カザフスタン、多くの日本人にとっては馴染みの薄い国かもしれませんが、そのカザフスタンでNEOの省エネルギーモジュール事業に参画した経験を持つ千葉秀樹氏の発案から山形カザフスタン友好協会は誕生いたしました。多くの意欲的な若手から役員・職員に拡大して協力を進めたいという思いから、協会の設立に際しては、長年の友人でもある酒田の有志がカザフスタンを訪問し、以降4年間にわたって協力を続けてまいりました。

酒田で起きたカザフスタンとの小さな交流の果が、今回のような場を経て大きな果となり、日カ友好がさらに深まっていければ幸いです。

このような機会を与えて頂きました中央区ユネスコ協会設立準備会の皆様へ深く感謝いたします。

ご挨拶
酒田共同火力発電株式会社 取締役社長 千葉 秀樹氏
山形カザフスタン友好協会 会長 加藤 明子氏

ご挨拶
中央区ユネスコ協会設立準備会 会長 藤掛 正史 事務局長 長谷川 芳見

本年、日本-カザフスタン共和国は外交関係樹立30周年を迎えました。この記念すべき年であるだけに多くの人々に知れ、日本とカザフスタンの交流促進に資する講演会を開催できることは大変に意義あることです。

中央区ユネスコ協会設立準備会は山形カザフスタン友好協会の地道な努力の賜に敬意を表し、今回、共同主催でカザフスタン共和国との国際交流のための講演会を開催する運びとなりました。

UNESCOは「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の平和の力を奪うことができない」(UNESCO憲章前文より)との思いを胸に、教育、科学、文化、コミュニケーションを通じて国際理解や国際協力を推進し、人びとの交流を通じた真の国際平和と人類の福祉を推進する活動を行っています。

そして、UNESCOは、日本が先の大戦で敗戦した後に初めて加盟した国際機関であり、中央区ユネスコ協会設立準備会は今般、中央区に定着し、UNESCOの理念に沿って活動を行っています。

結び、駐日カザフスタン共和国大使館をはじめ、山形カザフスタン友好協会の皆さま、ご来賓の皆さま、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

**日本-カザフスタン外交関係樹立30周年
おめでとうございます**

日本とカザフスタンの友好関係が
平和の礎の一つとなるよう新念いたします。

竹島 真紀子 斎藤 幸代 斎藤 美紀子
瀧口知代 我田 昭代 村上小夜子
松井 慧 神谷久美代 在原 和子

代表取締役社長 酒井 学雄
理事長 酒井 学雄

THE NATIONAL POLICY RESEARCH INSTITUTE
一般社団法人 中央政策研究所
事務局 佐々木 昭雄

THE NATIONAL POLICY RESEARCH INSTITUTE
特定非営利活動法人 日本ナレッジマネジメント協会
理事長 岩田 浩一

IFJSJ 一般社団法人 日本インバケーション融合学会
知のオリンピック実行委員長 藤掛 正史

株式会社 ソーシャルビューティーフォト
取締役会長 金子 祥三

(株) 中央セレモニー
代表取締役 大杉 実生
03-3949-6098

有限会社 美びあん
河野 初美

有限会社 中森ビル
取締役 中森 信子

中央区ユネスコ協会設立準備会
事務局長 長谷川 芳見
相談役 はせがわいさお

中央区ユネスコ協会設立準備会
会計理事 廣瀬 泉
中央区ユネスコ協会設立準備会
事務局次長 麻生 美典・岩佐 弘香